

小中一貫教育校だより

第2回推進委員会では、練馬区立小中一貫教育校の実施計画の策定に資するため、平成18年度に開校した足立区の小中一貫教育校の視察を行いました。

◆^{おきもとおうぎ}興本扇学園の視察について

創刊号でもご案内のように、学校、保護者、地域の代表など18名の委員からなる推進委員会において、平成23年4月の練馬区立小中一貫教育校の開校を目指して、実施計画を検討しています。推進委員会では、去る6月24日(水)に足立区の小中一貫教育校「興本扇学園（足立区扇3丁目）」を視察しました。

当日は、同学園の校長、副校長、PTA役員の皆様、また足立区教育委員会の教育改革推進課長から貴重なお話をお聞きするとともに、委員の皆様との間で意見交換を行いました。



東校舎（興本小学校）では1～4年生が学んでいます。



西校舎（扇中学校）では5～9年生が学んでいます。



校舎を見学した後、意見交換を行いました。

【興本扇学園の概要】

（開校の経緯）

当学園は、平成16年より「小中一貫教育推進委員会」を設立し、その後、足立区の「構造改革特別区域計画」の認定を受けるなどして平成18年4月に開校しました。既存の足立区立興本小学校と足立区立扇中学校の校舎を使用し、二つの校舎の間を「学園通り」で結んで、小中学校間を行き来できるようにした施設分離型の形態をとっています。

（小中学校9年間の段階分け）

I期（1～4年）II期（5～7年）III期（8・9年）に分け、児童・生徒の発達段階に応じて「学びの基本姿勢」「意欲的な学習姿勢」「主体的な学習姿勢」を身に付けることを目標としています。また、東校舎の興本小学校で小学校1～4年生が、西校舎の扇中学校で小学校5、6年生と中学校1～3年生が学んでいます。学校行事に応じてそれぞれの校舎を行き来し、9学年相互の交流を図っています。

（特色）

小学校3年生以上では、新たな教科として「国際コミュニケーション科」を設け、「英語学習・国際理解学習・キャリア学習」を柱に「生きる力」を育成しています。また、PTA、町会、自治会、学校が一体となった「開かれた学校づくり協議会」を設置し、学校中心の運営方法から地域全体が学校をサポートする応援体制を取り入れています。



東校舎と西校舎は、「学園通り」で結ばれています。



興本扇学園は、地域と保護者の熱意に支えられています。

（校長あいさつより）

本校では、不登校など中1ギャップと言われている問題が、小中学校間の接続をなだらかにすることにより改善されつつあります。また、小1から中3までの時間的一貫（縦の一貫）とPTA、町会・自治会、開かれた学校づくり協議会などの空間的一貫（横の一貫）がうまく重なり、小中一貫教育が強固なものになっているのが特色となっています。今後は、義務教育のグランドデザインを描くことが重要な課題となります。

◆今回の視察から学んだ事を、練馬区初となる小中一貫教育校の実施計画の検討に生かしていきます。

◆第3回推進委員会の報告

7月9日(木)午前10時から大泉学園桜中学校において、第3回推進委員会が開催されました。

◆興本扇学園の視察を終えて、各委員から次のような意見・感想が出されました。

- 練馬区初の小中一貫教育校になるので、教員の配置など継続的な区の支援をお願いしたい。
- 桜小は使用できる教室が少ないため、施設一体型のよさを生かして教室の確保を検討してほしい。
- 会議等の負担が増えないように、PTA組織の簡素化に向けた話し合いが必要だと思う。
- 小学校で代表委員を務めていた4年生の意欲が、5、6年生になると少し下がるとのことであった。また、今まで小学校の最高学年だった6年生の活躍する場を考えると大切だと感じた。
- 中学校舎で学ぶ5、6年生が、少しグレードアップした気持ちになって張り切っているという印象を受けた。
- 4（Ⅰ期）・3（Ⅱ期）・2（Ⅲ期）で分ける特性を生かしつつ、Ⅰ～Ⅲ期の接続を滑らかにしていきたい。
- 緑小の子供たちが桜中に行きたくなるような学校づくりをしてほしい。
- 同じ校舎の中で私服と制服があり違和感をもった。他区では行っていない練馬区ならではの小中一貫教育校をつくってほしい。
- 小中一貫教育校のPTA組織の検討にあたっては、行政の支援をお願いしたい。



◆施設整備について、各委員から次のような意見・要望が出されました。

- 小中学生の共有スペースとして図書室があるとよい。
- 放課後、学校応援団が活動できるスペースや保護者が会議を開くことのできる場所を確保してほしい。
- 小中学校の校舎を行き来できるように、2階部分に渡り廊下をつくってほしい。
- 中学生が安心して放課後を過ごせる場所があるとよい。
- 地域に開かれたスペースがあると、中学生が地域の子供たちの世話をすることにより、生きがいを感じることができると思う。
- 小学生にとっては、職員室は1階にあり、校庭に面していることが理想的である。
- 校長は1人であるため、職員室は1つが望ましい。教職員の交流を促進し、児童・生徒に関する情報の共有化を図ることができる。
- 一方の校舎に職員室を構えた場合、もう一方の職員室のない校舎で生活する子供たちへの目配りの必要性など、総合的に考える必要がある。
- 小中一貫教育校にふさわしいパソコン環境を整備してほしい。
- 広い校庭の活用など、魅力づくりのためには校舎だけでなく、外から見て分かるような施設も検討すべきだ。

◆施設整備については、次回の推進委員会で引き続き検討します。

練馬区立小中一貫教育校推進委員会事務局

練馬区教育委員会 学校教育部 新しい学校づくり担当課・教育指導課

TEL：03-5984-1065 FAX：03-3993-1196

ホームページアドレス：

<http://www.city.nerima.tokyo.jp/gakkou/atarasi/atarasi.html>

※推進委員会の資料・要点記録は、大泉学園桜小学校、大泉学園桜中学校、大泉学園緑小学校および新しい学校づくり担当課（区役所本庁舎12階）で閲覧できます。

※推進委員会の要点記録は、新しい学校づくり担当課のホームページでもご覧になれます。

推進委員会（第4回）の開催予定

日時：8月31日（月）14時00分～

場所：大泉学園桜中学校（2階 会議室）

案件：施設整備、就学など

※ 傍聴をご希望の方は、直接会場へお越しください。